

日弁連新会長に宮崎氏

「増員反対」高山氏得票伸ばす

日本弁護士連合会（日弁連）の平山正剛会長の任期満了に伴う次期会長選が8日行われ、大阪弁護士会の宮崎誠氏（63）が9402票を獲得し、7043票を得た東京弁護士会の高山俊吉氏（67）を破って、次期会長に選出された。投票率は66・52%。15日の選挙管理委員会ですら正式決定する。任期は4月1日から2年間。

今回の会長選では、法曹人口問題が最大の争点となった。「司法試験合格者数を2010年までに年間3000人に増やす」とする政府計画について、増員のスピードダウンを訴えた宮崎氏に対し、高山氏は増員

計画そのものに反対し、合格者を1500人以下に激減させると主張していた。裁判員制度の反対論者で、現執行部を激しく批判してきた高山氏は、過去4回の会長選で30000〜40000票の票を獲得していたが、今回、大幅に得票数を伸ばした。全国52の弁護士

会のうち、横浜、埼玉、千葉、愛知など13会では宮崎氏の得票数を上回った。過当競争の激化や就職難などを理由に、増員に強く反対する弁護士の支持が高山氏に集まったとみられる。

新会長に当選した宮崎氏は8日夜、大阪弁護士会では8日夜、大阪弁護士会では記者会見し、「裁判員制度は日本の文化を変える画期的な試みで、市民に理解してもらえるよう全力を尽くしたい」と抱負を述べた。法曹人口問題については、「政府に見直しを求めたい」とし、日弁連に委員会を設

置して就職状況などの現状を把握した上で、提言をまとめる意向を示した。宮崎氏は京大法学部を卒業後、1969年に弁護士登録。大阪弁護士会会長や日弁連副会長などを歴任、04年からは日弁連の日本司法支援センター推進本部の本部長代行も務めた。

福 社・観 光・国 際
共 栄 大 学
経 営・会 計・I T